

【参考資料】 平成21年度 実績報告(恵南森林組合)

作成日:平成22年4月30日

施業集約化	計画	実績	達成率	今後の対応	備考
数量	80.18	38.99	48.6%	H22:106.82ha	人工林:施業同意レベル 天然林:長期受委託レベル
いつ	H21年4月~H22年3月	H21年4月~H22年3月	/	通年対応を基本とする。 ○合意形成:中垣氏 ○杭打作業:生産森林組合、森林所有者 ○測量:森林5課、地元測量会社、臨時職員	中垣氏:上矢作地区担当者
誰が	集約化担当:中垣氏	集約化担当:中垣氏			
どういった方法で	個別訪問(30軒) 地区座談会(2回)	個別訪問(20軒) 地区座談会(2回)			
誰が	○合意形成:地区座談会の開催(4回程度) ○杭打作業:支援交付金を活用し生産森林組合等地元協力者の主導により林班単位で通年実施。 ○測量:ふるさと緊急雇用対策等で募集した臨時職員を境界測量を中心に集約化作業全般に従事させる。		森プロ団地周辺にロコミで取り組みが広がり同様の取り組みが進行中。H21年度森林境界明確化促進事業を活用し隣接エリアで300haの集約化実施。		

間伐	計画	実績	達成率	今後の対応	備考
数量	利用:22ha 切捨:30ha	利用:5.87ha 切捨:32.59ha	26.7% 108.6%	H22:22ha H22:30ha	梅雨、降雪期間を含めて出来る限り通年して素材生産。 素材生産担当:森林2課 引き続き立木配置を考慮し定性間伐を実施。
いつ	H21年4月~H22年3月	H21年4月~H22年3月	/	/	
誰が	素材生産担当:森林2課	素材生産担当:森林2課			
どういった方法で	林分毎に最適の集材方法を選択し定性間伐を実施	林分毎に最適の集材方法を選択し定性間伐を実施			

主伐[択伐]	計画	実績	達成率	今後の対応	備考
数量	3	1.41	47.0%	H22:3ha	梅雨時や水揚げ時期を避けて実施。 素材生産担当:森林2課 ヘリコプター集材 or 集材機
いつ	9月~11月	/	/	/	
誰が	素材生産担当:森林2課	/			
どういった方法で	ヘリコプター集材 or 集材機	/			

作業道(路)開設	計画	実績	達成率	今後の対応	備考
数量	2,000m	0m	0%	H22:2,500m	森プロ2号線を延長し、架線集材を実施。
いつ	H21年4月~H22年3月	H21年4月~H22年3月	/	/	
誰が	恵南森林組合	恵南森林組合			
どういった方法で	設計・施工・管理:森林組合直営	設計のみ地元測量会社に外注。			

素材生産	機械のみ更新(H19)	内容			
新規構築作業システム(機械の組合せ、種類・規格・台数)		伐倒:チェーンソー→集材:グラップル・スイングヤーダ(0.45)→造材:プロセッサ(0.45)→小運搬:クローラダンプ→積込・運搬:(新規)グラップル付トラック(6t)			
素材生産チーム数(チーム員数)	実施前 → 実施後 (H20) (H21)	1チーム(4人/班*2班)	→	1チーム(4人/班*2班)	
実稼働日数(日)		230		11	
素材生産性(m ³ /人・日)		3.65		3.75	
素材生産費(円/m ³)	H21計画(実績)		①ランキャリア:9,360(15,000)円/m ³ ②スイングヤーダ6,830(ー)円/m ³ ③スイングヤーダ+プロセッサ:4,825(ー)円/m ³ ④ヘリコプター+プロセッサ:4,266(15,000)円/m ³		

年間素材生産量	計画	実績	達成率	備考	今後の対応
モデル団地内	1,500	338	22.5%	組合全体実績	ヘリ集材又はタワーヤーダ・集材機による架線集材を中心に実施。
モデル団地外	9,240	9,503	102.8%		
合計	10,740	9,841	91.6%		

上記のほか、プロジェクト推進のために講じる具体的取り組み

計画	実績	達成度検証方法	今後の対応
森林施業プランナーの育成	プロジェクトを通じて森林施業プランナーを養成(2名)。	森林施業プランの活用件数	H22森林施業プランナーを養成予定(1名)。
NPO等と森の健康診断実施 <small>※平成19年度、森林研究所と協議した結果、森の健康診断の実施では目標林型に向けた達成度の確認が出来ないと指導を受けたため断念。</small>	/	/	/
試験研究機関との連携による施業実施後の科学的評価(定点・追跡調査)	H21:未実施	恵南地域標準施業体系図との比較による検証	定点プロット調査の継続実施。
えなの森林づくり推進委員会との連携	えなの森林づくり実施計画(H22~27)(H22年3月策定)に森プロのミニモデルとして「森林づくり会議」とモデル地区の設定を明記。	森林整備及び木材生産の取組状況を報告(毎年度、実施前・中・後の3回)。	えなの森林づくり実施計画(具体的な施策と目標数量を記載)に施業集約化のモデル事例として掲載し、今後、生産森林組合を核に各地域にミニモデル団地(大字単位に1つ以上)を設置し官民一丸となって集約化施業をH22年度から推進展開。
森林所有者を対象とした意向調査	H21:未実施	写真等により森林所有者に施業実施後の様子を報告しアンケートをとる。	プロジェクト実施後、アンケートを実施する(1回)。
その他	恵南地域森林づくりプロジェクトの取組みが平成20年度(第46回)岐阜県林業経営コンクールにて「最優秀賞」を受賞。 恵南地域森林づくり会議の設立(H21年5月)	/	H22年度全国コンクールに参加予定。 森プロの進捗状況確認と管轄エリア全域への普及を図る。